

【研究の概要】

【研究テーマ】

多様な「観」を愉しむ生活科学習

【問題意識】

昨年度の成果や課題から

幼児期や実生活での経験を生かしたことで、自ら経験を振り返り協働して学ぶことができた。総合的な学習の時間とのつながりを意識したことで、見通しをもち、実生活でも学び続けようとする姿が見られるようになった。一方、多様な考えに触れる機会づくりが課題として残った。

子どもの実態から

幼児期の経験や発達の段階は多様で、もった思いや願いを自覚したり表出したりすることについては、個人差が大きい。また、自己中心的に考えることが多く、身の回りの様々な対象への関心はあまり高くない。好奇心は旺盛だが、興味が長続きしなかったり、すぐに他のものに関心が移ったりする様子が見られる。今後、友達を意識し、思いや願いを共有することで、多様な考えや経験にふれることができるようにする必要がある。

教師の思いから

言動や表情、変容を見取ることで、表出されていない思いや願いをくみ取りたい。安心して表現し、共有できる場をつくることで、多様な考えや経験にふれ、それぞれのよさを感じることをできるようにしたい。

【生活科学習でめざす子どもの姿】

前提として表出する姿	・ 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらのかかわり等に興味をもつ姿
感じる段階	・ 具体的な活動や体験を通して、対象との共通点、相違点、自分自身のよさに気付く姿
調整する段階	・ 自らのよさを発揮したり、互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴したりする姿

【研究の視点①】

多様な「観」を子どもから表出させるための手立て

【研究の視点②】

子どもが多様な「観」を愉しむための手立て

【研究内容】

1 「遊び」で多様な観を育むための手立ての在り方

生活科の学習対象は、「①学校の施設」「②学校で働く人」「③友達」「④通学路」「⑤家族」「⑥家庭」「⑦地域で生活したり働いたりしている人」「⑧公共物」「⑨公共施設」「⑩地域の行事・出来事」「⑪身近な自然」「⑫身近にある物」「⑬動物」「⑭植物」「⑮自分のこと」である。また、生活科の見方・考え方は、「身近な人々、社会及び自然を自分とのかかわりや、自分と他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事」である。

これらのことから、生活科研究部では、多様な「観」の対象を友達や人に限定せず、子どもがかかわる全てのものとする。また、認知発達理論（ピアジェ）によると、低学年の子どもは、「前操作期」から「具体的操作期」への移行時期で、アニミズム的思考をする段階である。この特性を生かし、「ごっこ遊び」の要素を取り入れ、アサガオの家族として栽培活動を行ったり、「お子さん（アサガオ）は、何と言っていますか。」等の声掛けをして、様々な立場から考える機会をつくったりすることで、自分の「観」や他者（もの）の「観」に気付くことができるようにしたい。

また、前研究において、幼児期の遊びや実生活での経験を生かすことで、自ら経験を振り返り協働して学ぶことができるようになることがわかった。それぞれがもった「観」を表出したり、他者（もの）の「観」を受け入れたりするためには、協働的に学ぶ環境が必要である。

今年度は、前研究に引き続き、「幼児期の遊びをとおした学び」を取り入れながら、子どもが思いや願いを安心して表出できるような学級経営や学習活動、学習環境の構成を行うことで、多様な観を育むことができるようにする。

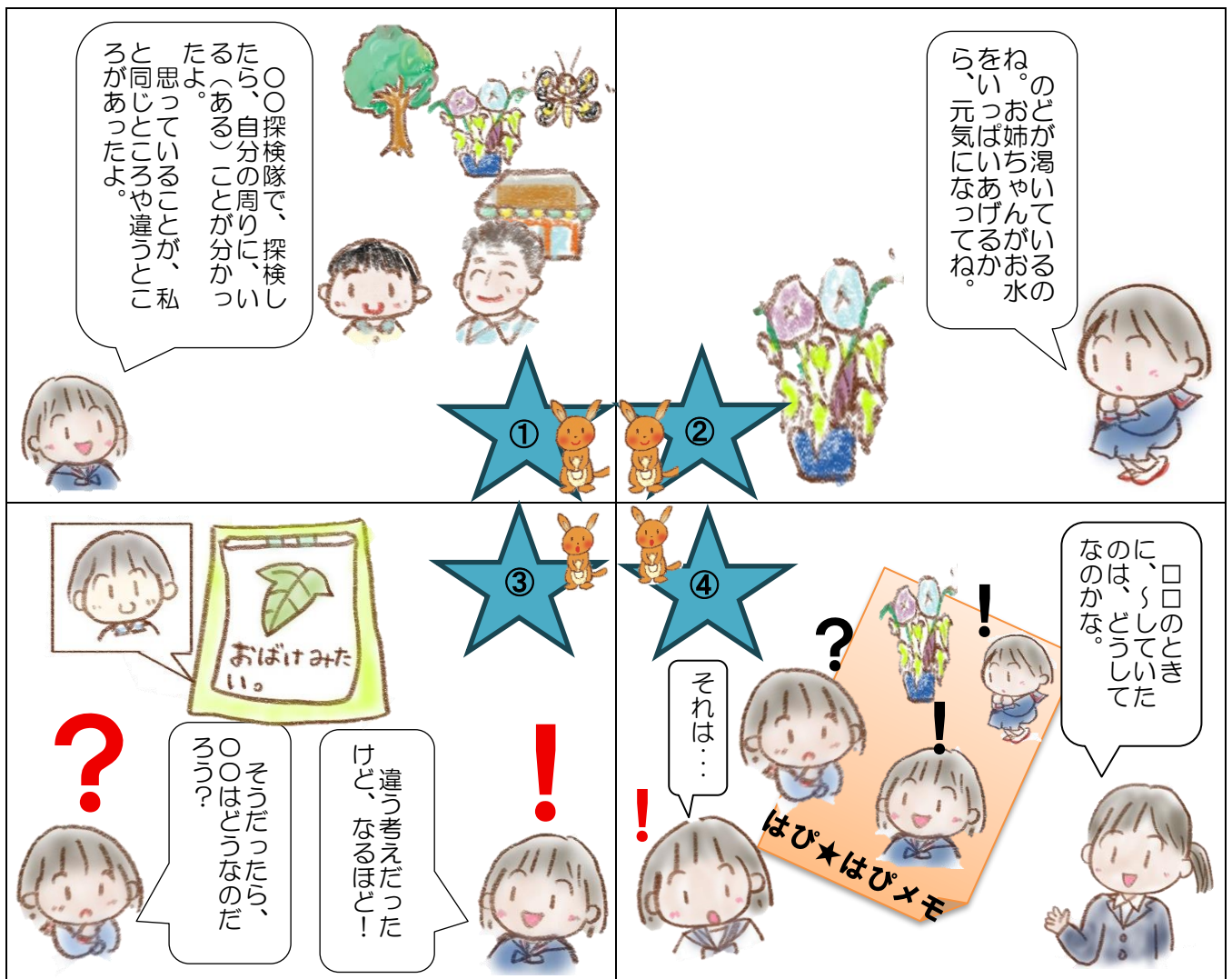
多様な「観」を愉しむ力を育むために、次の2つの手立てを講じる。

(1) 「観」を得るための手立て

- 多様な対象と出合わせたり、出会う機会を繰り返す。個人で思考する時間（仮称：ポケットタイム）の後、グループや全体で考えを伝え合う時間（仮称：ぴよんぴよんタイム→みんなでカンガルータイム）を設定することで、自分の考えを自覚したり、様々な考えや考え方があることを知ったり、自分との共通点や相違点を意識したりすることができるようにする（図①）。
- 学級経営や学習活動に「ごっこ遊び」を取り入れ、アニミズム的思考をする機会をつくることで、多様な考え方に触れることができるようにする（図②）。

(2) 新たな「観」を得るための手立て

- 対象に対して示した「！（感嘆）」や「？（疑問）」が、視覚的に残るようにする。そして、その「！や？」を、以前の自分や友達の「！や？」と比べることができるようにし、共通点や相違点に気付くことができるようにする。さらに、その気付きや新たにもった思いや願いを基に学習計画を立てることで、多様な考えにふれたり、互いにかかわる楽しさを味わったりすることができるようにする（図③）。
- 学級を「はぴ★はぴタウン」と設定し、学校生活における様々な活動をタウンでの出来事と見なす。教師は、タウンの「相談役」「ガイド」「ファシリテーター」として、子どもの思いや願いを受容し、活動が円滑に進むように見守り、必要な場面で支援する。教師が一人一人の行動や発言の中から特徴的なものなどを記録するカード（仮称：はぴはぴメモ）を作成し、活用することで、自らのよさを自覚することができるようにする（図④）。



【4つの手立てのイメージ図】

1 単元名

ともだちひやくにんだいさくせん

2 単元の目標及び評価規準

(3)地域と生活

附属幼稚園生と交流する活動を通して、附属幼稚園や幼稚園生について考え、相手や場に応じたかかわり方があることに気付くとともに、親しみや愛着をもち、これからも多様な人々とかかわろうという思いをもつことができるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 自分の身の回りには、様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していることが分かっている。	① 自分の幼児期の経験や附属幼稚園や幼稚園生を想起しながら、友達と交流している。	① 附属幼稚園や幼稚園生へ関心や期待をもちながら、繰り返しかかわろうとしている。
② 多様な人々にかかわる際に、相手や場に応じた挨拶や言葉遣いを行っている。	② してみたいことを思い描き、場や相手にふさわしい行動を予想しながら、計画を立てたり約束を決めたりしている。	② 遊び場所や相手に合わせ、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
③ 愛着のある場所や親しみのある人が増えたことに気付いている。	③ 好きになった場所や親しくなった人々のことを振り返りながら、友達に知らせている。	③ 附属幼稚園や幼稚園生へ親しみや愛着をもって、これからも多様な人々とかかわろうとしている。

3 単元について

本単元は、幼稚園生と交流する活動を通して、身近な場所やそこで生活している人々について考え、親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする態度を育成することをねらいとしている。

附属幼稚園は、近隣に所在し、年間を通じて交流する機会が数回ある。在籍園児の多くが本校に入学するため、交流を行い、親しみをもたせることで、入学を楽しみにしたり、自他の成長を感じたりすることが期待できる。「架け橋プログラム」においても、目的をもって交流することで、資質・能力がつながることを重視している。

本単元を学習することは、「附属幼稚園」「幼稚園生」「幼稚園の先生」「同じグループの友達」「学級の友達」等多様な対象とかかわる状況を生み、共通点や相違点、それぞれのよさに気付かせることで、多様性を尊重する力を育むことができ、自立し生活を豊かにするための資質・能力の育成を図る上で意義がある。

4 子どもについて

子どもは、入学して1か月程度しか経っていないため、同じ下校班や近くの座席の人と話すことが多く、学級全員と打ち解けるまでには至っていない。様々な幼稚園・保育園を卒園しており、居住地域も広範囲にわたる。生活環境も異なるため、実生活での経験も全く同じではないが、「花や野菜を育てた」「虫を育てた」等、共通の経験は数多くある。しかし、「同じだね」と受け入れることで終わり、よさを感じるまでには至っていない。異なる意見については、相手の考えを否定することはないが、答えが明確な場面で意見が分かると、戸惑い、反応に迷う姿が見られる。一方で、答えが明確ではない場面では、「いろいろあってよい」「人それぞれでよい」と捉え、違いを受け入れる様子が見られる。学習形態については、個人やペアでの学習が中心で、グループ活動の経験は少なく、意見を伝えたり、受け入れたり、妥協したりする力を育成していく必要がある。

抽出児について

※ 個人情報保護の観点から、省略します。

5 研究内容

本単元における多様な「観」を愉しむ子どもの姿	
幼稚園生と遊ぶ活動を通して、自分や対象（「グループの友達」「グループの幼稚園生」「他のグループ」）のよさに興味をもつ姿	
1：「遊び」で多様な観を育むための手立ての在り方	
年間を通じて、幼稚園生と交流する機会をつくる。その際、多様なグループ（出身園、性別、学級）を編成し、多様な対象とかかわり合う状況をつくる。また、幼稚園の先生と連携し、幼稚園や、幼稚園生、遊びの様子を紹介してもらい機会等をつくることで、幼稚園の先生と触れ合ったり、幼稚園生の立場から自分のことを考えたりすることができるようにする。	
特に、本時では、1回目の交流活動を振り返り、2回目の活動計画を立てる際に、「個人」「グループ」「学級全体」の3つの「考える場」を設定する。考えを学習プリントに書かせる際に、個人思考の時間を十分にとることで、「分からない」という思いも含め、思いや願いを表出することができるようにする。次に、グループで学習プリントを見せながら、考えを伝えさせることで、「同じだ」「似ている」「ちょっと違う」「思い付かなかった」等の反応を返すことができるようにする。最後に、学級全体でグループの意見を紹介させた後に、自由に話す時間を設定することで、多様な考えがあることや違いの面白さを味わうことができるようにする。	


6 単元指導計画（12時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	情・態度	態
生み出す (2)	1 グループの友達と出会い、これからの活動に見通しをもつ。 〈2時間〉 ○ グループの友達との出会い (0.5) ○ 幼稚園生との出会い、幼稚園の紹介 (1) ○ 振り返り、単元のめあての設定 (0.5) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">幼稚園生と友達になろう。</div>	○ 3つの学級を混ぜてグループを編成し、自己紹介の場を設けることで、自分のことを伝えたり、より多くの考えを聴いたりすることができるようにする。	①		
	行動観察 記述分析				
挑む (8)	2 交流活動①を行う。 〈4時間〉 ○ 遊びの計画 (2) ・ 遊びの種類 ・ 遊ぶ順番 ○ 幼稚園生との交流 (1) ○ 振り返り (1)	○ 幼稚園の先生から遊びの様子を聴き、入学前の自分と比較する機会をつくることで、幼稚園生を思い浮かべ、新たな思いや願いをもつことができるようにする。 ○ 遊びを考える際に、個人で思考した後、グループで意見を交流する場を設定することで、自分と友達の考えの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ○ 遊びを選んだ理由や状況を尋ね、思いを言葉で表出させた後に、それに応じた言葉をかけることで、気付かなかった思いや願いに気付くことができるようにする。 ○ 振り返ったことをグループや全体で交流する場をつくることで、自分と友達、幼稚園生の様子を比べ、頑張ったことや改善点に気付くことができるようにする。		①	①
	行動観察 記述分析				
本時 5/8	3 交流活動②を行う。 〈4時間〉 ○ 遊びの計画 (2) ○ 幼稚園生との交流 (1) ○ 振り返り (1)	○ 前回の振り返りを基に個人で思考した後、グループや全体で伝え合う場を設定することで、考えを伝えたり聴いたりするよさを味わうことができるようにする。 ○ 遊びの状況や気持ちを問い、それに応じた言葉をかけることで、気付かなかった思いや願いに気付くことができるようにする。	②	②	②
発言分析 記述分析 行動観察					
生かす (2)	4 これまでの活動を振り返る。 〈2時間〉 ○ 振り返り (1.5) ○ 新たな思いや願い (0.5)	○ 活動を振り返る際に、これまでの写真や学習プリントを見返す機会をつくることで、活動前後の自分を比べ、自分の成長に気付くことができるようにする。 ○ グループの友達と感想を交流する場を設定することで、友達の頑張りに気付いたり、友達と活動することの楽しさを味わったりすることができるようにする。	③	③	③
	記述分析				

7 本時の目標

2回目の交流に向けて、やってみたいことを考え、グループや学級の友達に思いや願いを伝えたり、友達の思いや願いを聴いたりすることができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
<p>1 本時学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目の交流の振り返り ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2回目の交流のときに、やってみたいことを考えて、伝えよう。</p> </div> <p>2 学習への見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① ポケットタイム（個人） ② びよんびよんタイム（グループ） ③ カンガルータイム（全体） ④ ふりかえるタイム</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ゴール：「友達をたくさんつくる。」</p>  </div> <p>3 2回目の交流でやってみたい遊びや準備したいことを考える。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人の考え→グループの考え <p>A児「1回目のときに砂遊びをしたから、今度は違う遊びをしたいな。」 B児「1回目のときの砂遊びが楽しかったから、今度もしたいな。」</p> <p>【グループの伝え合い例】</p> <p>A児「1回目のときに砂遊びをしたから、今度は違う遊びをしたいな。」 B児「えっ。僕は、楽しかったから、また砂遊びをしたいな。」 A児「○班さんがやっていた折り紙をしたいな。」 B児「この前よりも大きなお山をつくらうよ。」 C児「どちらの遊びも楽しそうだなあ。」 A児「言われてみるとそうだね。どうしよう。」 B児「ううん、どうしよう。」</p> <p>4 グループの伝え合いで出た意見を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループの考え <p>■班「1回目は砂遊びをしたので、ブランコをしたいと思います。」 ●班「この前と同じ遊びをするか違う遊びをするかで困っています。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えについて思ったこと <p>D児「ブランコは楽しそうだね。」 E児「●班さん、半分ずつ遊んだらどうかな。」</p> <p>5 本時学習について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの共有 ○ 新たな思いや願い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流時の写真と「達成度」「満足度」を提示し、遊びの種類やそのときの気持ちを尋ねることで、遊びの内容や思ったことの、共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ○ 「2回目も、1回目と同じ遊びをしますよね。」等、反応が分かれるような声掛けをすることで、自分の思いや願いを自覚し、本時のゴールへの思いを高めることができるようにする。 ○ 1回目の振り返りを「自分」「友達」「幼稚園生」の視点で分けて提示することで、かかわる対象の思いや願いにも気付くことができるようにする。 ○ 活動の流れやゴールを示し、「何が大切かな。」と問いかけることで、考え方や大切にしたいことの違いを認め合いながら、理由や目的を確認することができるようにする。 ○ やってみたい遊びや準備したいことを学習プリントに書かせることで、グループでの活動時に意思表示をすることができるようにする。 ○ 考えが浮かばないという子どもには、幼稚園の先生から聞いたり、幼児期に経験したことのある遊びの名前を書いたものを見せたりすることで、選ぶことができるようにする。 ○ 考えがまとまらないグループがあった場合、やってみたいことを数種類、カードに書かせる。内容によって、カードを重ねたり、近くに置いたりするように伝えることで、様々な意見があることが視覚的に分かるようにする。 ○ 学級を「遊び紹介所」と設定し、グループの伝え合いで出た考えを紹介する場をつくる。そうすることで、「1年生」として情報を集めたり、「幼稚園生」として自分の経験を思い返ししながら、幼稚園生の気持ちを想起したりすることができるようにする。 ○ 他のグループの考えを聴いた後、自由に話すことができる時間を設定することで、思ったことを率直に伝えたり、「！」や「？」を表出したりすることができるようにする。 ○ 振り返ったことを紹介することで、自分の振り返りと比べ、自分の頑張りや友達と共に学ぶ楽しさに気付くことができるようにする。 ○ 「知りたいことや準備したいことはないかな。」と尋ねることで、何をしたいのか準備したいことについて思いや願いを高めることができるようにする。

9 本時の評価規準

1回目の交流活動時の幼稚園生や自分たちの様子を思い出しながら、2回目の交流時にやってみたいことを考え、グループや学級の友達に伝えている。
 （思考・判断・表現②）【記述分析・発言分析】

6/17 ともだちひやくにんだいさくせん

↓
6/23

2かめ
ようちんせいとなかよく
だいきせんを
かえよう。

たっせいど

まんぞくと



写真

写真

写真

写真

写真

はぐれないように
する。



まよ
たのしく
なりそう。

ようちんせい
あわせた。

ぐるうぶ
ともだち

みんなのぐるうぶみか
せんいで あそべなかつた



写真

写真

写真

写真

ようちん
せい

じかんがたりなかつた。
ようちんせいと
はぐれた。

じぶん

ようちんせいと
あそべなかつた。

なまえがわからない。
かおがわからない。

